

日本共産党埼玉県議団ほっとNEWS

2012 NO. 7

2012年6月12日 日本共産党埼玉県議団

患者家族も地元市も、移転には納得していない！ 県立小児移転説明会、いまだ疑問続出

県立小児医療センター説明会 参加者の質問続出 患者家族

説明会（6月9日）

センター内で開かれた患者家族説明会には135名が参加し、県病院局経営管理課、病院長らが対応しました。説明後、質問の手が次々あがりました。患者家族は当事者であり、計画の決定の際に患者の同意を得るべきだとする意見を県は拒否しました。また、ある患者家族は情報公開請求した資料を示し「患者家族に説明もなくセンターと赤十字の病院長会議や経営者会議が多数開かれている。開示請求をしてもほとんどが黒塗りで会議の内容が患者家族に報告されない。今回の説明会で開示してほしい」と発言し、会場のほとんどの患者家族が賛同を表明したにもかかわらず、県は「県の情報公開のルールにのっとっただけ」として開示を拒否しました。説明会は約1時間の延長で終了しました。

毎回ふくれあがるデモの隊列 地元説明会（6月10日）

蓮田市民等を対象にした地元説明会に先だって「センター存続を求める蓮田市民の会」主催のデモが行われ、前回を上回る約100名の市民が蓮田駅からセンタ



ーまで存続を訴えて行進しました。その中には県議会では賛成派の公明党や自民党系の市会議員の姿も。説明会は約130名の参加で開かれ、岩槻市の自治連合会長のセンター建設当時にさかのぼっての訴えや、孫がセンターに通院する難病患者である女性の訴えが深く共感を呼びました。

さいたま赤十字病院小児科全 員退職報道について県に要請

センター移転後、新都心で一体的に総合周産期母子医療センターを新設する予定のさいたま赤十字病院の小児科医4人全員が退職を表明し、移転計画がその背景にあるとする報道について、党埼玉県議団は、11日県医療整備課から説明を受けました。「赤十字病院の小児科医確保の努力を見守る」とする県の担当者に対して、柳下県議は「移転計画の影響がなかったのか？ 県は第三者的ではなく、積極的に支援せよ」村岡県議は「退職の理由をきちんと県も把握すべきだ。また県立小児のスタッフの意向も調査をしないと、思いがけない事態になりかねない」と指摘しました。（詳報はHPにて）